

平成 30 年度沖縄県認知症支援推進事業
若年性認知症支援者研修会 本島開催 報告書

1. 研修名：平成 30 年度沖縄県若年性認知症支援推進事業 若年性認知症支援者研修会
2. 日時： 2018年8月3日（金）13時半～17時（受付13時 開始）
会場： 沖縄県総合福祉センター ゆいホール 定員150名
(那覇市首里石嶺町4-373-1)
3. 目的： 広く若年性認知症について啓発を行うと同時に支援者へ研修を行うことで、若年性認知症の一人ひとりがその状態に応じた適切な支援を受けられることを目的とする。
4. プログラム 受付開始：13時 研修開始13時半 終了17時

	開始時間	終了時間	内容	所要時間	講師
1	13:30	13:45	県内の事情	15分	若年性認知症支援コーディネーター
2	13:45	14:30	ケース報告：就労継続支援事業所に通う当事者発表	45分	当事者と支援者
3	14:40	15:30	若年性認知症の利用できる制度について	50分	嬉野が丘サマリヤ人病院 認知症疾患医療センター 山川ゆかり氏
4	15:35	16:25	経済的支援について（傷病手当金・障害年金手続きについて）	50分	沖縄県社会保険労務士会 オフコース障害年金プラザ 中島隆史氏
5	16:25	16:30	閉会		

5. 研修資料について

テキストは『本人・家族のための若年性認知症支援ハンドブック（沖縄県）』を基本としているが、各講師により配付資料を検討頂いた。配付資料ありは、1. 沖縄県の現状と制度 3, 制度について 4. 経済的支援について。資料なしは2. 当事者発表参加費は無料。

6. 広報

新オレンジサポート室発信：

チラシ郵送 5/7 県内 541 件（沖縄県発行 沖縄県認知症対応機関団体等リスト全カ所）

6/15 平成 29 年 4/3～平成 30 年 6/15 までに相談のあった

介護家族 95 名のうち支援継続中の 32 名へ郵送

8/1 平成 30 年 6/16～8/1 までに相談のあった介護家族 4 名へ口頭で案内

F A X での案内 沖縄県介護支援専門員協会、(一社) 沖縄県グループホーム連絡会

沖縄県発信：就労継続 B 型事業所へ F A X 送信

申し込み状況：

申し込み締め切り 7/23（月） 申込者 83 名

（延長）申し込み締め切り 8/2（木） 申込者 117 名

7. 当日の様子	当日参加者数	80名
内訳	介護家族	14名
	医療	11名
	介護保険事業所	18名
	行政	9名
	包括	20名
	就労継続事業所	6名
	本人	2名

8. 講義内容

1. 若年性認知症の県内の現状：H29 年度若年性認知症支援コーディネーターが配置されたあとの相談内容から、1年間に把握された沖縄県の特徴について報告。
内容：昨年1年間の相談窓口利用者は他府県に比べ、多くの方に利用頂いていた。本人、家族からの相談も多かったが、一番相談されていたのが介護支援専門員であった。内容は利用出来るサービスについて相談であった。

2. ケース報告 就労継続支援事業所に通う当事者発表：何十年も通い慣れた職場まで、道迷いで出勤できず退職したケースで、就労継続B型事業所を利用しているケースの紹介。当事者とB型事業所管理者にどのように就労を行なっているか発表頂いた。

内容：B型事業所に通っても朝の送迎を待てずに自分で歩きだすことで行方不明に何度もなった。SOS登録をし、送迎ルート内で捜索方法を工夫したが、何度も行方不明になった。包括や病院と連携し朝の送迎までの時間を埋める制度を模索したが、介護保険では見守りは対象外、障がい福祉でも朝の送迎の支援はなかった。しかし、本人の能力は維持され、笑顔が増え、イキイキ働いている。その現実を共有したい。

フロアーからの質問：現在、認知症の方が2名利用されているとありましたが、今後、若年性認知症の方が利用したいとみえたらどうしますか。

発表者（管理者）返答：今回のケースは6時50分に迎えに行くという異例の対応だった。奥様も勤務時間を調整され、私（管理者）も自分の出勤時に迎えた。これは特別であって、また出来るかということではない。しかしご本人の笑顔が増えイキイキと働かれる姿や能力を維持しているところは大きい。20のB型事業所が1名ずつ受入れてくれたら、20名のかたの笑顔が増える。そうなってほしいと考えている。

3. 制度について：認知症疾患医療センターサマリヤ人病院PSW山川氏により、若年性認知症者の利用出来る制度について講義頂く。主に医療費助成と障がい福祉制度を中心に、ハンドブックよりさらに詳しく説明頂いた。

フロアーからの質問：このように「いろいろ利用出来ます」と言われても、そこに相談に行くまでが大変。私の弟は若年性認知症と40代でいわれ引きこもり、数年前だが自殺してしまった。家族でもどうにもできなかった。

コーディネーターとして返答（中野）：平成29年度から若年性認知症支援コーデ

イネーターが沖縄県では配置された。今、鑑別診断が行なわれる認知症疾患医療センターからは、告知の際にコーディネーターも呼ばれ、告知の場面に同席し、すぐに支援が入れるようになっていきます。これは告知後のショックとともに今後への不安に対して、すぐに支援を開始することで、とても重要なこととしてすすめています。そして今日のような研修会をもって周知していくことも大切と考えていますので、次年度はさらに研修会を開催していきます。

4. 経済的支援について：沖縄県社会保険労務士会 社会保険法務士 中島氏より、障害年金のしくみと申請について講義頂く。

フロアーからの質問（介護家族の方）：65歳を過ぎていたが厚生年金を拠出していたことから、障害年金を申請することができた。そして結果は2級とでたが、老齢基礎年金と障害厚生年金は併給できなかった。今日の講義でそのしくみが理解できました。しかし、今日のような説明は年金事務所でされたのか曖昧で良く理解できなかった。また老齢年金は所得と見なされることでその後の税金に係わることが、あとでわかり、国保税に何年も悩まされたという話もあります。会場のみなさんへ、私のようなこともあるので、しっかり調べて、わからなければちゃんと相談した方がいいと思います。

講師より返答：社労士会からの派遣で年金事務所の窓口業務に従事していたこともあるのですが、窓口相談員も専門職ですが、説明漏れもあります。説明が理解できないときは、再度しっかりと尋ねられることをお勧めします。何度も尋ねられて下さい。

9. アンケート結果 回答 51名 回収率 63.8%

問 本日の内容について感想を教えてください

	よかった	ふつう	よくなかった	無記入（部分的）
県内の現状	86.3%	5.9%	1.9%	5.9%
ケース紹介	90.2%	5.9%	0%	3.9%
制度について	72.6%	15.7%	3.9%	7.8%
経済的支援	78.5%	9.8%	1.9%	9.8%

問 みなさまの地域で、若年性認知症の方々の支援が充実するために、今後、どのような取り組みが必要とお考えですか？

（ご家族）

- ・ 中学、高校、地域でも理解が得られるための講演会等を取り入れてほしい。
- ・ 経済的支援が難しかったです。無料で相談が出来る場所が欲しい。また若年性認知症の方々が通える場所が増えてほしいと願います
- ・ やはり居場所づくりが必要かと思えます。認知症の方でも気兼ねなく通える場、働ける場を整えて行く必要があります。又、若年性認知症に特化した事業

所も出てきて欲しいです。会場からの声もありましたが、告知の場合に、寄り添えることは本人が疾患を受入れ、前を向いて歩ける力になると思いますので、地域の方々もそういう優しい目で見守り、過ごしやすい社会になると思います

- ・若年性認知症は障害年金の申請の際に納付要件を満たしていないことも多く、病の状況から、今後、厚労省・年金機構の理解が進むことを強く望みます。国民年金加入者であっても病のために納付をしておらず、免除申請も出来る状態ではないため、障害基礎年金の受給も出来ない家族もいて、本当に経済的に困難な状況であると考えます。進行の早いかたは、障害認定日は介護家族の状況にあわないと考えます。

- ・病が進行すると紙おむつを使用する事になりますが、ある市の場合、非課税世帯で要介護度 4 以上、在宅介護という規定がありますが、その規定が少し変わり、紙おむつ助成を少しでも受けられる事を望みます。

- ・重度障害者手当について、私の経験では、市の窓口の担当者は、身体の障害を基準に捉えているようで、精神の障害（重度）については理解がなく、申請用紙すら、もらうことが出来ませんでした。

（その他専門職）

- ・若年性認知症について広報を増やす。
- ・認知症サポーター要請講座を中高生のカリキュラムに入れてほしい。
- ・当事者、家族に対する情報発信
- ・社会保険労務士 中島さんの話はとても勉強になりました。沢山の人が聞きたいと思うので、幅広く講演してほしい。
- ・まずは支援者が若年性のかたの社会資源の勉強が大切だと思った。
- ・常に周りの方に挨拶などの地域の事業を進んで行なう事だと思う。
- ・心のサポートケア
- ・受入れ事業所が増えること（事業所同士の情報共有、対応の勉強会）
- ・住民向け、警察向け研修会
- ・（介護保険）若年性のかたにあったサービスの見直しが必要と思います。
- ・医療費の負担軽減、働く事が出来なくなって、社会との関わりを失う不安へのメンタル的なフォロー、支給される手当、制度の拡充への働きかけ
- ・当事者の社会参加を支援していくうえで、他職種連携、情報共有の必要性、家族支援、外出支援、診断について、一般病院との連携、若年性のかたのサービス支援体制の充実化
- ・私自身が若年性認知症になったとしたら、高齢のかたとデイサービスでゆっくり過ごすよりも働きたいと思う。今日の質問にも出たように難しいとは思いますが就労施設の利用をすすめていきたい。介護と就労施設の連携がなかなかないので繋がっていきたいと思います。
- ・他課との連携、支援出来る制度、機関の把握、本人家族が相談できる窓口の明確化。
- ・メディアに出て行く、今回のような研修会、正しい認知症理解を広めていく。
- ・専門職として支援している人だけではなく、地域住民のかた、会社の人支援者となっていく取組みが必要。
- ・事例にもあったように、家族、包括、相談支援、病院等の情報共有ができる

関係づくりが大切と実感した。

- ・病院に行くのは不安だけど、誰かに相談したい。相談先を調べやすく、まずは受診に繋げるように。

- ・ひとり在宅時の見守り支援

- ・介護関係者だけでなく、一般の方にも認知症の理解や周知が必要なのではないかと感じました。

- ・地域作り、総合相談窓口づくり、機関の連携

- ・若年性認知症の方向けのデイサービス、デイケアはないのか、という問い合わせはよくあるので、ニーズは高いと思う。事業所とも連携して行政としてできる支援をもっと考えていきたいし、取り組んでいきたいと感じた。

- ・サービスの受け皿がとても少ないと感じた。サービス事業所にも若年性認知症についての理解や多様なサービスを作る機会をつくりたいと感じた。

- ・地域や関係機関との連携、居場所づくり（就労やデイケア等、認知症対応型事業所等の整備）、ボランティアの活用・要請等

- ・若年性認知症連絡会など集まる機会やネットワーク構築ができないか。コーディネーター2名の配置も激務だと思うので、各地区などでのとりまとめができたらいと思う。

- ・自事業所でも若年性認知症のかたを受入れていきたい。

- ・本人の生の声

- ・今日のような勉強会を支援者のみならず、家族や一般の人向けに開催して頂くこと、社会保険労務士さんの具体的なお話参考になりました。

- ・コーディネーターの配置があることなど若年性認知症に関するさまざまな制度を把握してことが必要と思います。また就労の部分など受入れ先が地域にあることは大切だと思います。市としてもそのことをふまえた体制を整備していけるようにしなければと思いました。

- ・経済的支援のしくみが少し整理できました。

- ・就労支援継続支援B型事業所の個人にあわせた取組みは大変素晴らしく、学びとなりました。

- ・地域の理解、資源受け皿不足を感じております。私達支援者が、他の取組みを学び、地域に持ち帰って作らなければいけないと考えます。

- ・個別ケース毎に個別支援会議をひらき、地域ケア会議のなかで考えていきたい。それを積み上げて、地域の課題をあげて、どう対応するか考えることで、役所にもわかってもらう。

- ・デイで有償ボランティアを是非、やってほしい。

- ・ご家族の方の意見について、ご家族だから余計に入っていけないことも多々あります。そんなときに病院受診時に支援者と会えるよう工夫をしてほしい。

- ・若年性認知症の方々の存在をもっと表面化し、理解をもらえる地域作りが必要と強く感じました。私はデイサービスに属していますので、7/27 付け介護保険最新情報の社会参加、有償ボランティアの取組みどうか展開したいとおもいます。

主催者の所感：

平成 28 年度、平成 29 年度は専門職を対象に、専門職研修会を開催していたが、今年度は介護家族も専門職と同じ知識を学んで頂きたいと考え、支援者研修会と名称を変え、各分野に広報頂いた。平成 29 年度コーディネーター配置以降、今回の研修会までの相談者（介護家族）へ案内をお送りしたところ、今回 6 世帯 8 名のご家族が参加され、この他にも 6 名の介護家族のかたが参加されていた。若年性認知症のかたは、雇用継続でもシフト性などの働き方を見直すため、収入は減少する。障害年金の申請だけでなく、医療費の助成や税金の減免を念頭に手続きが必要な制度の利用について、学ぶことが必要となる。今回特に、医療費助成などの分野を認知症疾患医療センターの精神保健福祉士の山川さん、障害年金の分野を沖縄県社会保険労務士会のご推薦を頂き、障害年金を専門とされる中島さんにご講義頂いた。フロアからの質問内容の深さや、研修会終了後も介護家族は講師へ質問されていた様子からも、今後も専門分野の方々より情報が頂ける研修会が必要であると感じた。さらに、研修会終了後に相談コーナーの設置も有効ではないかと思われた。検討していきたい。今回ご協力頂きました嬉野が丘サマリヤ人病院認知症疾患医療センター様、沖縄県社会保険労務士会様に、心より感謝申し上げます。

沖縄県若年性認知症支援コーディネーター中野小織

当日の様子



以上